

平成28年度 横浜市市民活動支援センター自主事業部門

(補助事業：平成28年度から平成29年度の3か年事業)

事業名：「カフェ型中間支援機能の創出・強化・普及」事業

平成28年度 横浜市市民活動支援センター事業報告書

平成29年度 横浜市市民活動支援センター事業計画書

実施団体：横浜コミュニティカフェネットワーク

事業報告書

事業名	カフェ型中間支援機能の創出・強化・普及
テーマ	中間支援組織の機能の充実
事業運営	<p>横浜市市民活動支援センター事業を担う他団体との協力・連携 (横浜市市民活動支援センター事業を担う他団体(自主事業部門・運営事業部門)と相互に協力・連携が果たされたか。)</p>
	<p>1. 横浜市市民活動支援センター(市民セクターよこはま) ①コミュニティカフェフォーラム開催にあたっての広報PRを行っていただいた。 ②各区区民活動支援センター職員向けのネットワーク会議で、当ネットワークの取り組みを紹介し、区域におけるコミュニティカフェ的な団体の存在やその意義について事業説明を行った。</p> <p>2. アクションポート横浜 アクションポート横浜が行う横浜市市民活動支援センター自主事業で開設している「スパイス+」にコミュニティカフェフォーラム取材してもらった。今後、記事掲載をしてもらう予定。</p>
	<p>予算(経費執行が適正であるとともに、経費節減の工夫がされたか。)</p> <p>費用は適正に執行できた。年度当初から事業進捗を定期的に確認し、計画と得られた成果に基づいて取組みを進めたことで、効果的な経費執行ができた。</p> <p>また、本事業は、市外からも高い関心が寄せられており、2年目の成果を広く共有するための中間報告は、印刷冊子部数を抑え、WEB掲載の手法をとることで費用を抑えつつ、広域に発信することができた。</p>
	<p>事業内容(事業内容は市民公益活動のニーズを捉えたものか。) (具体的な事業内容)</p> <p>1. 訪問調査(6か所) 各地のカフェが持つ中間支援的役割の現状や課題、運営団体の意識確認も含めて訪問調査した。区民活動支援センターなどの地域版中間支援機能についてもヒアリングを行い連携の可能性を考えた。</p> <p>2. カフェ伴走会議(13回(3(+6団体)×@3回、2(+3団体)×@2回)+2回) 前年からの継続2団体に公募で新規3団体を加えて5団体を対象とし、先行取組カフェの関係者が伴走支援を行った。またカフェ関係者(10団体程度)による検討会(2回)を行いそれぞれの中間支援力の底上げをした。</p> <p>3. 公開フォーラム開催(1回、52名参加) 1と2で把握された現状を広く報告し、今後を考える場をつくった。</p> <p>4. 報告書の素材整理 成果まとめ、中間報告をWEB掲載と関係者分印刷100部</p>
事業計画	

この書類は、横浜市市民協働条例第7条第4項の規定に基づき、一般の閲覧に供しなればなりません。

	<p>事業計画 (実施時期や方法が適切で、計画通りに実施されたか。)</p> <p>1. 訪問調査 (6か所) 各地のカフェが持つ中間支援の役割の現状や課題、運営団体の意識確認も含めて訪問調査した。区民活動支援センターなどの地域版中間支援機能についてもヒアリングを行い連携の可能性を考える。 (訪問先：コミュニティサロン「さくら茶屋」、芝の家、ソンベカフェ、港北区地域振興課、港北区区民活動支援センター、都筑区地域振興課・都筑区民活動センター、戸塚区地域振興課・とつか区民活動センター)</p> <p>2. カフェ伴走会議 (対象5団体+支援カフェ6団体、9月～3月、計13回) 前年からの継続2団体に公募で新規3団体を加えて5団体を対象とし、先行取り組みカフェ3団体の関係者が伴走支援を行う。 ■大倉山おへそ (港北区) ① 7月11日 ②12月8日 ■シェアリーカフェ(都筑区)① 5月25日 ②9月20日 ■ハートフルポート(旭区) ① 10月6日 ②11月10日 ③12月6日 ■反町駅前ふれあいサロン (神奈川区) ①8月1日 ②11月14日③1月20日 ■コミュニティサロンおさん (南区) ① 9月26日 ②1月16日 ③1月30日 ■事例検討会 (10月～12月、2回) コミュニティカフェの中間支援機能の価値の見える化を図り、共通の評価軸を見つけ、社会的な価値を説明可能にすることを目的とした。 ①10月11日 (火) 12時半～14時半 こまちカフェ (戸塚区) ②12月13日 (火)10時～12時 上倉田ケアプラザ (戸塚区)</p> <p>3. 公開フォーラム開催 (2月12日(日)午後ふらっとステーションとつかにて、52名参加) 1～2で把握された視点や現状について広く報告共有した。</p> <p>4. 報告書の素材整理 (視点と先進事例) 成果をまとめ、中間報告をWEB掲載。関係者用に印刷。</p>
	<p>期待される効果 (市民の満足度が高まり、具体的な効果があったか。)</p> <p>○伴走支援においては、初年度からの継続支援カフェ及び2年目からの新規支援カフェともに、自身の活動の「中間支援」に目を向けるきっかけとなった。カフェ運営者のみならず、スタッフの方々が日々の活動が「中間支援」であることを認識し、意識の変化にもつながっている。</p> <p>○区内の施設間ネットワーク会議にコミュニティカフェを加えてもらう等、カフェ以外の施設による「コミュニティカフェの中間支援の価値」を認めるケースが出てきている。</p> <p>○検討会においては「コミュニティカフェの価値の見える化」についての議論が深まり、具体的な指標案までつくることのできた。また、定性的な指標の考え方の整理もできた。</p> <p>○コミュニティカフェ実践者による市外のカフェや区民活動センター等への視察を通して、行政との協働・連携の在り方や、個人の活動がコミュニティカフェとして発展していくプロセスも整理されていった。</p>
<p>自己評価</p>	<p>○フォーラムでは昨年に続き、定員を超える応募があり、コミュニティカフェやコミュニティカフェが担う中間支援の価値についての関心の更なる高まりが感じられた。参加者からは、中間支援の意味やカフェ実践者が「変容」をいかに起こしていくことができるかについて様々な議論がなされ、実践者のみならず様々な中間支援をなされている団体や個人、一般の方をも含めて議論の場をもうけることができた。また、参加者からはコミュニティカフェを地域で支えていくことの重要性を感じた、等の声をいただいた。地域に支えられ更に支えられていく必要があるからこそ、その生み出している価値を丁寧に説明していく責任があることをフォーラムにて確認することができた。</p>

(第10号様式)

事業収支決算書

【収入】

(単位：円)

項目	金額	説明
横浜市市民活動支援センター事業補助金	2,000,000	
団体負担(会費・寄附等)	200,293	会費・寄付金等より充当
	2	利息
参加費・資料代等	48,000	公開フォーラム参加費 1,500円×32名
合計	2,248,295	

【支出】

項目	金額	説明(使途、積算根拠等)
カフェ訪問調査	171,160	調査費 8,000円 交通費 22,160円 人件費 141,000円
事例研究会	229,000	開催費 15,000円 交通費 44,000円 人件費 170,000円
伴走会議	1,051,621	団体受入謝金 10,000円×13回+9,000円 会場費 5,000円×13回 交通費 24,621円 人件費 823,000円
公開フォーラム	304,606	講師(3名)・報告者(5名)謝金 85,000円 会場費・お茶代 46,800円 広報・印刷費 30,306円 運営人件費 142,500円
報告書	355,000	原稿執筆謝金 120,000円 編集人件費 170,000円 印刷費 65,000円
事務経費	136,908	打合せ会場費・事務用品・印刷費 共同オフィス賃借料 46,000円
合計	2,248,295	

*補助金交付の対象である事業の収支決算を記入してください。

この書類は、横浜市市民協働条例第7条第4項の規定に基づき、一般の閲覧に供しなければなりません。

事業計画書

提案 事業名	カフェ型中間支援機能の創出・強化・普及
<p>① 趣旨・目的</p>	<p>【背景】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内各区では、区民活動支援センター・区社会福祉協議会・地区センター・地域ケアプラザ・コミュニティハウスなどの施設が、団体や住民の活動拠点となっている。 ・この10年ほどの間に「コミュニティカフェ」という新たなスタイルの地域拠点が市内に次々生まれている。飲食を伴わないカフェ的な場も含め、形態も交流型・テーマ型・事業型等、多種多様だ。 ・「目的を持たなくても利用できる」カフェは敷居を低く、多様な利用者に、居場所や情報、地域での役割（出番）も提供している。また、団体の運営支援やネットワークづくり、連携のコーディネート等、中間支援機能を果たす要素を内在している。 ・市内に早期に開設されたカフェでは、エリアマネジメント、ネットワークづくり、団体運営相談等、既に中間支援役割を果たし始めている。この数年は、横浜市まち普請事業を活用し地域づくりを意識して開設するカフェ等も増えて、そうした中間支援志向のカフェに、支援機能の強化ニーズが出てきている。 <p>【事業の目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前年までの本事業で、カフェが中間支援役割を果たす意義や支援機能充実のために必要な要素、持つべき力量等を整理し、カフェの現状や課題・ニーズを一定把握、区民活動センターなどの公的な中間支援機能の現状やコミュニティカフェとの関わりなどをヒアリングし、コミュニティカフェの先進事例に学んできた。「コミュニティカフェの価値の見える化」についての議論が深まり、具体的な指標案までつくることができた。また、定性的な指標の考え方の整理もできた。コミュニティカフェの中間支援機能を持続可能にするために、何が必要となるのか、更なる検討整理の必要が出てきている。 <p>3年目はこれまでの成果を基に、コミュニティカフェが各地域で多様な主体と連携した地域フォーラム開催を通じ、ネットワークやコーディネートの力量を高めることを模索し「市内のコミュニティカフェが中間支援の経験値を高めること」、「当ネットワークが個別カフェを支援する中間支援モデル構築」の両方を目指す。また、3か年の取組みを報告書や啓発冊子にまとめ、カフェ型中間支援機能の可能性を発信し、各地での地域交流拠点連携のあり方を考える素材となること、中間支援志向のコミュニティカフェの力量形成の一助となることも目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年に引き続き、中間支援機能を果たすコミュニティカフェと、区民活動センターを初めとする区域の中間支援組織や公的活動拠点との連携も考え、各地域（中学校区程度の小地域等）での市民活動の支援環境のあり方も考えていきたい。
<p>② 事業内容</p>	<p>(事業実施地域)</p> <p>横浜市域（小地域をベースとしたモデル事例5か所程度と、中間支援機能を志向する15程度のコミュニティカフェが運営されているエリア）</p> <p>(事業の対象者)</p> <p>横浜市内で運営されているコミュニティカフェと、当該カフェが立地する地域住民、地域活動団体等、まちづくりの多様な主体</p>

(事業内容) H27～H29年の3か年で、下記の事業を行う。

1. 事例検討会 (H27年5回、16団体)

既に中間支援機能を果たすコミュニティカフェの事例から、成功要因やその機能を把握し、カフェが中間支援機能を持つ意義や役割、持つべき力量を整理する。

2. カフェ伴走会議 (H27年・H28年、計5団体+5～6団体、検討会議2回10団体程度)

中間支援組織を志向するカフェ運営団体 (5団体・2年目新規3団体公募) に対し、既に中間支援機能を持ち得ている先行取組カフェ 5～6 団体の関係者が伴走支援を行う。個別カフェの支援機能強化・先行取組カフェの力量向上と同時に、伴走支援を通じて横浜コミュニティカフェネットワークの支援力向上も図る。

また、小地域での中間支援機能強化を進めるために、カフェ単独でなく地域のステークホルダーと連携協力して体制構築する可能性を模索する。

3. 公開フォーラム開催 (H27年・H28年・H29年、年1回、各回60名規模)

「事例検討会」と「カフェ伴走会議」で把握された成果について報告共有の場をつくり、コミュニティカフェの中間支援機能に関する理解と、関心層を広げる。

4. 訪問調査 (H27年6か所、H28年6か所)

横浜市内のカフェがどのように中間支援役割を果たしているのか、地域での連携の可能性、課題やニーズ等を、訪問し把握する。2年目は区民活動支援センター等も訪問、地域での中間支援機能の状況把握と連携可能性を探る。

5. 地域フォーラム開催 (H29年、市内5か所)

「カフェ伴走会議」の支援対象カフェが、各地域で多様な主体と連携した地域フォーラム(自主勉強会)を開催し、具体的な中間支援の力量形成・支援基盤強化に取り組む。カフェ支援会議の支援者が、継続して助言をする。

6. 報告書、啓発冊子の制作発行 (H27年、H28年、H29年)

事業成果 (コミュニティカフェが中間支援機能を持つ意義、中間支援機能や役割の整理、コミュニティカフェでの支援の実際、事例等) を年度ごとに記録し、中間報告をWEB掲載。3年目に報告書 (無料配布) と啓発冊子 (有料頒布) の2種類を発行する。

※この頁は、事業提案時に、横浜市市民活動支援センター自主事業実施要綱第1号様式にて継続希望「あり」とされた場合、又は前年度以前から提案を継続している団体のみ記入してください。

		個別カフェの支援力強化	当ネットワークの支援力強化
3 事業計画 (事業経過)	H27 年度	2. カフェ伴走会議 (1年目) 2 団体 (+伴走側 2 団体) ・伴走先との調整 ・伴走会議 計 7 回 (3 回+4 回)	●支援センター事業他団体との連携調整 4. 訪問調査 (6 か所) 1. 先進事例研究 (5 回) ・事例調整 ・研究会開催 6. 報告書の素材作成 3. 公開フォーラム ・企画準備 ・広報 ・フォーラム開催 ・中間報告 WEB 掲載
	H28 年度	2. カフェ伴走会議 (2年目) 5 団体 (公募新規 3+継続 2) (+伴走側 3 団体) ① 新規団体の公募選考 ② 伴走会議 計 13 回 (@3 回×新規 3 団体) (@2 回×継続 2 団体) ③ カフェ検討会 (10 団体・2 回)	4. 訪問調査 (6 か所) ・訪問先の選定・調整 ・訪問調査 6. 報告書の素材作成 3. 公開フォーラム ・企画準備 ・広報 ・フォーラム開催 ・中間報告 WEB 掲載
	H29 年度	5. 地域フォーラム (5 団体=伴走会議伴走先) ・各地域での企画・調整 ・伴走者による助言 計 5 回 (@2 回×5) ・地域フォーラム開催	6. 報告書・啓発冊子の発行 ・原稿執筆・編集作業 ・印刷 3. 公開フォーラム ・企画準備・広報 ・フォーラム開催
		「報告書」の発行・送付、WEB 掲載 「啓発冊子」の発行	
4 横浜市市民活動支援センター事業を担う他の団体との協力・連携	1. 横浜市市民活動支援センター (市民セクターよこはま) ① アニマート取材等を通じた現場訪問、特に拠点に関わる情報の共有をお願いしたい。 ② 各区区民活動支援センター関係者が市域に集まる会議等で、当ネットワークの取り組みを紹介し、区域におけるコミュニティカフェ的な団体の存在やその意義について意見交換等をお願いしたい。 上記を通じ、公開フォーラムでの報告の素材とする。またこれからの地域づくりにコミュニティカフェが果たす役割や意義、地域連携について議論を行い、相互に連携して取り組みたい。		

<p>5 具体的な事業内容 期待される効果及び予算等</p> <p>(既に本事業による取組を実施している場合、実施済みの年については事業結果及び決算を記入)</p>	H27 年度	<p>(事業結果)</p> <p>1. 訪問調査 (6か所) 自治会・町内会が行っているカフェ等を中心に、コミュニティカフェが果たしている中間支援的役割の状況を、課題も含めて訪問調査した。</p> <p>2. 事例検討会 (5回) 事例から、カフェで行われている中間支援機能を把握し、コミュニティカフェが中間支援機能を持つ意義や役割、持つべき機能や力量などの視点を整理した。</p> <p>3. カフェ伴走会議 (2団体(+2団体)、計7回) 中間支援組織を志向するカフェ運営団体に対し、既に中間支援的役割を持ち得ている先行取組カフェの関係者が支援者となり伴走支援を行った。</p> <p>4. 公開フォーラム開催 (1回、80名参加) 1と2で把握された視点や現状について広く報告共有した。</p> <p>5. 報告書の素材整理 (視点と先進事例) 成果をまとめ、中間報告をWEBに掲載。</p> <p>(期待される効果) 視点の整理と共有</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティカフェが中間支援を果たす意義や、必要となる要素、支援機能のプログラムや仕組みについて、今後の取組の視点が整理された。 ・具体的な個別カフェ2か所の現状把握とコミュニティカフェが果たす中間支援のあり方について理解が進み、先行取組カフェ2か所の力量形成がはかられた。 ・各種事業を通じて、当団体の中間支援の経験値が上がった。 <p>(事業の決算額) 2,301 千円 (横浜市補助金額) 2,000 千円</p>
	H28 年度	<p>(具体的な事業内容)</p> <p>1. 訪問調査 (6か所) 各地のカフェが持つ中間支援的役割の現状や課題、運営団体の意識確認も含めて訪問調査した。区民活動支援センターなどの地域版中間支援機能についてもヒアリングを行い連携の可能性を考えた。</p> <p>2. カフェ伴走会議 (13回 (3(+6団体)×@3回、2(+3団体)×@2回)+2回) 前年からの継続2団体に公募で新規3団体を加えて5団体を対象とし、先行取組カフェの関係者が伴走支援を行った。またカフェ関係者(10団体程度)による検討会(2回)を行いそれぞれの中間支援力の底上げをした。</p> <p>3. 公開フォーラム開催 (1回、52名参加) 1と2で把握された現状を広く報告し、今後を考える場をつくった。</p> <p>4. 報告書の素材整理 成果をまとめ、中間報告をWEB掲載と関係者分印刷100部</p> <p>(期待される効果) 現状とニーズ把握、支援ノウハウ・実績の蓄積</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各地のコミュニティカフェと区民活動支援センターなどの地域中間支援機能についての現状把握が進み、当ネットワークが果たす広域中間支援のあり方検討の素地ができた。 ・個別カフェ5か所の中間支援に対する理解と支援力強化、支援に入った先行取組カフェの力量形成が進んだ。 ・当ネットワークによる個別支援の経験・実績が蓄積された。 <p>(事業の決算見込額) 2,248 千円 (横浜市補助金額) 2,000 千円</p>
	H29 年度	<p>(具体的な事業内容)</p> <p>1. 報告書と啓発冊子の制作</p> <p>①報告書 (約20ページ300部) 区役所、区民活動支援センター、市内コミュニティカフェ等へ送付</p> <p>②啓発冊子 (約30ページ700部) コミュニティカフェによる中間支援役割と機能、中間支援組織の地域連携等について理解を広げるための「啓発冊子」を制作し、希望者や今後の啓発活動や相談対応で、有料頒布する。</p> <p>2. 地域フォーラム開催 (市内5か所) カフェ伴走会議の受入れ団体が、各地域で多様なまちづくりの主体・住民を募りフォーラム(または自主勉強会)を開催し、地域課題の共有や具体的なネットワークづくりを実践し、コーディネート能力を更に向上させる。カフェ伴走会議の支援者は、引き続き助言を行う。</p> <p>3. 公開フォーラム開催 (1回、60名規模) 3か年の成果を広く報告し、カフェ型中間支援組織の展開を考える場をつくる。</p> <p>(期待される効果) 普及と展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中間支援組織を自覚し実践する複数のカフェが市内に生まれる。 ・カフェ型中間支援機能を啓発普及させるための実績とツールができる。 <p>(事業の総予算額) 2,400 千円 (横浜市補助金額) 2,000 千円</p>

(第4号様式)

事業収支予算書

【収入】

(単位：円)

項目	金額	説明
横浜市市民活動支援センター事業補助金	2,000,000	
団体負担(会費・寄附等)	280,000	会費収入より充当
参加費・資料代等	120,000	公開フォーラム参加費2,000円×60名
合計	2,400,000	

【支出】

項目		金額	説明(使途、積算根拠等)
地域フォーラム	開催費	500,000	100,000円×5団体
	主担支援者人件費	350,000	2,500円×28hrs×5団体×1名
	主担支援者交通費	20,000	2,000円×2回×5団体×1名
	支援者人件費	50,000	2,500円×4hrs×5団体×1名
	支援者交通費	20,000	2,000円×2回×5団体×1名
	事務局人件費	25,000	1,000円×25hrs×1名
公開フォーラム	講師謝礼金	30,000	30,000円×1名
	報告者謝礼金	60,000	10,000円×6名
	会場費	55,000	お茶代含む
	広報印刷費	40,000	広報チラシ・配布資料
	事務局人件費	70,000	2,500円×28hrs
		6,000	1,000円×6hrs
報告書・啓発冊子発行	原稿執筆謝金	270,000	30,000円×9名
	編集打合せ交通費	48,000	2,000円×6名×4回
	事務局人件費	275,000	2,500円×110hrs×1名
		25,000	1,000円×25hrs×1名
	報告書印刷費	80,000	
	報告書送料	20,000	
	冊子印刷費	150,000	
	冊子デザイン料	150,000	
事務経費	打合せ会場費	72,000	6,000円×12ヶ月
	事務用品費	36,000	
	共同オフィス賃借料	48,000	4,000円×12ヶ月
合計		2,400,000	